

新しく

1月

一人でここに立つ

妙高山を見つめながら

見つめられている

一年の始まり

一人でここに立つと

人との

自然との

万物との繋がりが

粉雪の様に舞い降りて来る

2017年の始まり

目を凝らせば

せわしく動き回るシジュウカラ

ここ、池の平の雪原で

新しくスタートするのだ

人も自然も

降りしきる雪の中

小さな光を求めて

キヤッチする

2月

厳冬の高原に

光が小さく遊び始めた

かすかに揺れる木々の先端

白樺の側面に

そしてなだれ落ちて舞う粉雪にも

小さな光が遊び始めた

光は遊びの天才である

生き物は

わずかな光を脳内キヤッチして

動き出す夢を見始める

如月の厳冬の雪原でのかくれんぼ

見上げればリスの尾にも

光は滑り落ち

雪原にジャンプする

3月

雪原

朝の光る雪原

氷のような雪原

ついに来たのだ その雪原が

さすれば我らのフィールド

シュ・シュ・シューと春の音を響かせ

カラフルなスノーシューが

歓声を連れて

林間をかけ抜ける

〈視界が開けたね〉

何故だかワクワクして

小鳥も狐の足跡もスキップする

ついに来たのだ 春への王手が

池の平から見上げる妙高山の笑み

新芽

やって来たよ

池の平にも

妙高戸隠連山国立公園に
やって来たよ 春が

君は知っているかい

山全体が日ごとに変化する色彩を

やがて訪れる冬芽の連続炸裂

音さえ聞こえそうな！

雪原の下で走り始めた水の音

走りたくなるよ

飛びたくなるよ

生き物も人も光もみんな

身体と心も新芽のように

噴火する

岩魚・空中散歩

5月

雪代の流れが終わる頃
木々は萌黄色から緑となって
山々の上へとなだれ上がる

岩魚の丸い眼は見た
川底からの緑の風景と青空を
じっと耐えた冬

山桜の色が川面に流れ
水温も少しは上がり
自然に泳ぎたくなるのだ

ミミズが流れて来た
何のためらいもなく飲み込めば
その一瞬空中に引き抜かれた
緑の五月の風景の中に

人の声も混じって
川岸は春の装いで一層賑やかだが
ピクピクと跳ねる間もなく
針を外され再び水中に放された

釣り人のへりりーす精神へゆえに

夢見平

6月

一匹の岩魚は夢見た
たくさんの仲間達と泳ぐ姿を

小鳥は夢見た
平和な空で羽ばたく姿を

森は夢見た
あらゆる生き物の楽園であることを

人は夢見た
まっすぐに自分の道を歩く姿を

緑の山々の呼吸が木霊する
短い夏の始まり
夢見平の夢の話

アドベンチャー

7月

高い山のウツギの花もそろそろ終わり
カッコーの声

大勢の子ども達がカブトムシのように
忘れずにやって来る

歓声を連れてー 光る文月の高原に

夏が来ると大自然も喜んで
子ども達に合わせて声を出す

ヤッホー ヤッホー

山彦の後半は大自然の声なのだ
確かめてごらん ヤッホーと

高原に風が走り山全体を揺らすのは
大きく息を吸い込み吐き出したからだ
まるで人間みたいだね

夏が来たよ

さあ みんななチュラルアドベンチャーだ

ヤッホー ヤッホー

8月

夏の高原

青空にわきあがる入道雲

親も子も

空のトンビも

食事中のクワガタムシも

見上げる 見上げる

高原に響きわたる歓声

オオヨシキリも

トンボも

夢みるスイレンの花も

耳を澄ます 耳を澄ます

伸び上がる夏の高原

9月

ツリフネソウ

ツリフネソウが

朝の冷気にそっと揺れる

夏の面影を残す風景の中

季節はゆるやかに

時にすばやく

秋へと移る

ツリフネソウが

午後の日差しの中でかすかに揺れる

散策者に見つめられながら

ツリフネソウは赤紫色のゆりかご

夢を見ているものは誰？

10月

おしくらまんじゅう

アケビ、キノコ、ドングリ、栗
実りのおしくらまんじゅう

イタチ、狸、キツネ、ツキノワグマ
秋のおしくらまんじゅう

鯉、イワナ、バス、赤トンボ、水鳥
満員御礼

妙高山、火打山、戸隠山
紅葉の服を着て

高原の秋の実りのおしくらまんじゅう
騒げば騒ぐほど
静けさ下りてくる。

冠雪光れば

11月

初冠雪って何だか憧れ

紅葉がかけっこして下りて来た
つり橋が渡れなくなる前に

燕温泉 河原の湯に浸かる

ちる ちる 木の葉 溪流に

ごく自然に女性も露天風呂の中
目を閉じて時の流れを振り返る

標高1100メートル

硫黄が香る

ここはもう秋は終わりなのだ
と
そうめん滝が教えてくれた

雪国II

天からこらえきれずに
満ちあふれて
舞い落ちる雪

心の水平線からこらえきれずに
満ちあふれて
伝い落ちる涙

あふれ出なければならぬ訳を
心は知っているから
雪と涙は共鳴し合い
かすかな青い呼吸をする

深い雪国

(詩集 雪螢 より)

12月